



松本市図書館だより

平成28年 2月1日発行 第35号

編集・発行 松本市図書館
〒390-0861
松本市蟻ヶ崎 2-4-40
電話/0263(32)0099



節分ってどんな日？



もともと節分とは、立春、立夏、立秋、立冬など、季節の改まる前日のことを呼びましたが、しだいに立春の前日だけを節分と指すようになりました。

古代中国では大晦日に、邪鬼や疫病などを打ち払うため、鬼の面をかぶった人を、桃の木で作った弓矢で射って追い払う、「追儺」（ついな）という行事がありました。これが奈良時代、日本に伝わり、平安時代には宮中で大晦日の行事として、盛んに行われるようになりました。豆まきの行事が定着したのは室町時代中期以降のことで、江戸時代になると、現在のような豆まきの行事が一般庶民の間にも広まりました。

本来は大晦日の行事でしたが、旧暦では新年が春から始まるため、立春前日の節分の行事に変わっていったということです。

「福は内、鬼は外」と大声で豆をまくのは、季節の変わり目は、鬼などの妖怪や悪霊が集まり、疫病や災いをもたらすと考えられていたため、豆をまくことによって自分の家から鬼を打ち払おうとしたのです。

参考：『日本人のしきたり』（飯倉 晴武／編著、青春出版社、2003年）



『春夏秋冬を楽しむくらし歳時記』

（生活たのしみ隊／編、成美堂出版、2013年）



鏡開き、節分、穀雨、端午の節句、立秋…。季節に寄り添った、昔ながらの慣習やくらしの知恵をイラストとともにわかりやすく紹介します。

『せつぶんだまめまきだ』

（桜井信夫／作、赤坂三好／絵、教育画劇、2000年）



昔、冬から春へと季節が変わる頃に、人々は豆をまき、いわしを焼いてその頭をヒイラギの枝にさして、悪い鬼を追い払うことを始めました。節分の行事の由来を絵本で読んでみてはいかがでしょうか？

★2月の図書館イベント★

◆スウェーデン児童文学パネル展◆

～長くつ下のピippi生誕70周年記念企画～

長くつ下のピippi生誕70周年を記念し、スウェーデンを中心とした北欧の文学、文化等を紹介する展示を行います。

日時：2月2日（火）～28日（日）

9：30～19：00（土日祝は17：00）まで

毎週月曜日、12日（金）26日（金）はお休み

場所：中央図書館ロビー

問い合わせ先：中央図書館 ☎32-0099

◆絵本の中の料理教室◆

日時：2月28日（日）10：30～

場所：南部公民館3階 料理実習室

定員：親子10組（小学生以上）

※要事前申込 参加費あり

◆マジックショー◆

日時：2月14日（日）10：30～11：30

場所：なんなんひろば 大会議室

問い合わせ先：南部図書館 ☎26-1083

◆子どもも大人も楽しめる「立春落語会」◆

日時：2月21日（日）10：30～11：30

場所：松本市波田文化センター 2階会議室

対象：小中学生～一般

定員：40人（要事前申込）

問い合わせ先：波田図書館 ☎92-7503

◆紙芝居を中心とした読み聞かせ講座◆

日時：2月25日（木）10：00～12：00

場所：梓川図書館 第二会議室

問い合わせ先：梓川図書館 ☎76-2070

◆マカロンポー千作り◆

日時：2月20日（土）9：30～12：00頃

場所：島内公民館 視聴覚室

問い合わせ先：島内図書館 ☎48-2711

新刊のご案内



『なるほど! お金のはなし』

マーティン・ジェンキンス/文 きたむらさとし/絵

【J33 シ 所蔵館：中央 南部 西部 本郷 波田】

児童書でありつつも、大人が読んで楽しい、いやむしろ大人が読んだ方が楽しめる? という内容です。お金について、その歴史等々を、面白おかしく、そしてわかりやすくひもときながら、紹介しています。「お金って何だろう?」と考えさせられる一冊です。

『ピースフル 現代版判じ絵本』

倉本 美津留/文 本 秀康/絵 文藝春秋 【726モ 所蔵館：あがた】

「判じ絵」とは江戸時代に庶民のあいだで流行った"目で見るとなぞなぞ"のことです。たとえば、毛の長いハチ公の絵は「健気」、ヒラメが木になっている絵は「ヒラメキ」というものです。解き方のヒントは、描かれているモノやコトを声に出して試みる。答えは全てポジティブな言葉なので、読み終わったときには"ピースフル"な気持ちになるでしょう。ぜひ、現代版の判じ絵で遊んでみてください。



予約本ベスト5

平成27年12月15日～
平成28年1月15日受付

一般書

- 1位 『人魚の眠る家』
東野 圭吾/著、幻冬舎
- 2位 『ユートピア』(Utopia)
湊 かなえ/著、集英社
- 3位 『羊と鋼の森』
宮下 奈都/著、文芸春秋
- 4位 『火花』
又吉 直樹/著、文芸春秋
- 5位 『下町ロケット2』(ガウディ計画)
池井戸 潤/著、小学館

児童書

- 1位 『きえた!? かいけつゾロリ』
原 ゆたか/作・絵、ポプラ社
- 2位 『おしりたんてい プブッチいさなしゃちょうの
だいピンチ』 トロル/作・絵、ポプラ社
- 3位 『おしりたんてい プブッレインボーダイヤを
さがせ!』 トロル/作・絵、ポプラ社
- 『都会(まち)のトム&ソーヤ 13』
はやみね かおる/著、講談社
- 『もうぬげない』
ヨシタケ シンスケ/作、ブロンズ新社

図書館に聞いてみよう!

【今月の事例】

Q. 春は青、夏は朱、秋は白のように季節には色があるが、冬は何色か?

- A. ア「新日本大歳時記 冬」(1999年/講談社)
イ「広辞苑 第六版」(2008年/岩波書店)

季節のことが書かれている本に載っているのではないかと思ひアの資料を調べました。すると p22、「玄冬」の説明の中に『「玄」は黒を意味し、冬は色でいえば黒の世界である。』という表記があり、冬の色は「黒」であるということが確認できました。

また、イの資料で「玄冬」の意味を調べたところ「五行説」という言葉が出てきたため、同じくイの資料で意味を調べてみました。すると p981 に「五行配当」という表が載っており、こちらの資料でも冬の色は「黒」であるということが確認できました。

図書館には、調べ物のお手伝いをするサービスがあります。本についての問い合わせ以外にも、身近な疑問についてもお調べしていますので、お気軽にご利用ください。

編集後記

立春とは名ばかりの寒い日が続いていますが、皆さん風邪などひかずに元気にお過ごしでしょうか? 今月も新刊本やイベントがたくさんありますので、是非暖をとりがてら図書館へ遊びに来てください。

FMまつもと 今月の出演

2月3日(水) 12:30～
チャンネル: 79.1MHz

※放送日等変更になる可能性もあるのでご了承ください